



南舞岡小だより

学校教育目標「人・まち・自然に進んでかわり、自ら学びを深め、

共に生きる素晴らしさを感じ合うことができる子を育てます」

学校所在地 〒244-0814 横浜市戸塚区南舞岡4-15-1 (TEL823-4120,4130)

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/minamimaioka/>



経過と結果

学校長 地主 佐和子

7月20日の朝会で、「8月27日にみんなが学校に戻ってくることを楽しみにしています。」と子どもたちに伝えて1ヶ月余り、顔と顔を合わせることができずに9月を迎えることになりました。少し遅れて再開した学校生活は慣れない分散登校になりましたが、子どもたちの楽しく充実した時間となるように、学校でも感染対策を進めてまいります。各ご家庭でも、引き続き体調管理を徹底していただき、登校日には健康観察票のご記入を、自宅学習日にはロイロノートでのご報告をお願いいたします。予想をはるかに上回る感染拡大の状況から、今後の学校運営にも気が引き締まる思いです。

夏の風物詩と言えるものはいくつかありますが、この夏、ステイホーム中に高校野球の試合をテレビで観戦しました。神奈川県大会も、甲子園の全国大会も、特別に応援しているチームがなくても見てしまうのが私にとっての高校野球です。今年の試合ではありませんが、私の心にずっと残っている試合があります。県大会の2回戦ですから、決して強豪同士の対戦ではありません。この試合の勝者は、全国制覇もしている県内屈指の強豪のA高校、敗者は野球より進学のほうが実績のあるB高校でした。誰もがA高校が勝つこと、しかもコールドであろうことを予想していたような組み合わせで、実際の結果も7対0、7回コールド、波乱が起きたわけでもなく、一瞬で忘れられそうな試合の1つなのかもしれません。この試合、私はB高校に気持ちが寄り添っていたため、早々に大量失点するのではないかと思いつながらの観戦でしたが、3回が終わった時点で、相手を無得点に抑え、しかも試合の初ヒットは2回にB高校から出ていたので、強豪相手になかなかやるのではないかと気持ちが高まりました。その後、4回にA高校の初ヒットが本塁打、先取点を取られてしまいます。6回が終わった時点で2対0、ヒット数は同じという展開に、いつの間にかコールド負けや大量失点という予想は頭から消えていました。しかし、7回に5点取られて結果は上記のとおりです。試合結果としては、心に残るものではないのですが、試合内容を見て、強豪相手に7対0、7回コールドは立派に思いました。

スポーツ、試合、子どもに限ったことではなく、多くのことには結果に至るプロセスが存在します。結果だけが伝えられて経過については何も知らされないということもよくあることです。経過(試合内容)が心を動かし、結果も含めていつまでも記憶に残るといった今回のようなこともよくある話ですが、試合であれば結果がすべてで、勝者と敗者に分かれるというのもまた現実です。何に重きを置くかで見方は様々に変わります。

9月は前期最後の月となります。前期の最終日には「あゆみ」をお渡しします。「あゆみ」は経過と結果を踏まえて担任が作成したものです。ただし、ここで言う結果は、子どもの人生にとって経過でもあります。そう考えると、1ヶ月後に手にする「あゆみ」の結果の前に、今のこの瞬間、毎日毎日の過ごし方について考えたくありませんか。家にいる時間の長い2回目の夏休みを終えて戻ってきた子どもたちに、できたできない、勝った負けただけでは価値を、朝会などで話し、伝えていきたいと考えております。